

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【東岩槻小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策	
知識・技能	【国語】新出漢字の習得において、文字単体では読み書きができて、文脈に応じた活用に課題が見られる。そこで、辞書を引いて熟語を調べたり、例文を作成したりする活動を取り入れ、文脈に応じて漢字を正しく使えるようにする。 【算数】当該学年で学習する基礎的な計算方法の理解や技能に課題が見られる。そこで、個々の習熟度に応じて質や量を調整した適用問題の提示や反復練習を行い、計算技能を確実に身に付けられるようにする。また、前学年までの既習事項を丁寧に振り返る機会を設けるとともに、家庭学習や朝学習の時間を活用して復習を継続的に行うようにする。	
思考・判断・表現	【国語】主に「読むこと」の領域において、複数の資料を読み比べたり、文章全体の構成を捉えて要旨を把握したりすることに課題が見られる。また、図や表などの資料と本文を結び付け、必要な情報を見付けることにも困難がある。そこで、挿絵や資料が示されている意図や効果を、本文中の叙述との関わりの中で丁寧に読み取らせ、資料と文章を関連付けて捉える力を育成するようとする。 【算数】児童がより主体的に学習へ取り組めるようにするため、既習事項とのズレを意識した問題提示によって「なぜこの問題を解く必要があるのか」という必要感をもたせる。また、既習事項を振り返ることで課題解決の見直しをもたせ、導入段階から「自分も解けそうだ」という意欲を高め、自力解決につながるようとする。	

今年度の課題と学力向上策		
①	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 【国語】当該学年までに身に付けるべき漢字や言語に関する知識が定着不足であること 【算数】数の概念や基礎的な計算方法についての理解・技能が定着不足であること <指導上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能を習得するための反復練習の時間を確保できていないこと	⇒【国語】個人での読書、本の読み聞かせ、調べ学習等、委員会活動や学校図書館と関連させ、児童が活字を読む機会を増やす。【随時】 【算数】折り紙などの実物を使ったり、毎回の授業始めて確認したりするなど、実物に触れたり繰り返し確認したりする機会を増やす。【随時】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 【国語】考える力や、思ったり想像したりする力が定着不足であること 【算数】具体物、図、目的にあった表現方法を用いて算数の事象を考察することが苦手であること <指導上の課題> 思考を深める発問や、ヒントとなる手立てが不足していること	⇒【国語】日常的に説明的文章や短文などを読み、内容を相手に伝えたり、自分の思いや考えを持ったりできるようにする。【随時】 【算数】文字を図で置き換える、図から題意を理解する、図や表から立式する、式に合った問題作りをするなどの活動を授業の中に取り入れる。【随時】

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	B	【国語】各学年で、国語科のみならず複数教科で図書館を積極的に利用したことに加え、図書館司書による季節の本の読み聞かせ、講話朝会における校長先生からの本の読み聞かせ、図書委員会による「本のスタンブラー」や「図書館宝探し」などのイベントの実施によって、児童が本に親しむ機会、活字を読む機会を増やすことができた。 【算数】主に「図形」「測定」の領域における具体物の提示や操作に加え、デジタル教科書を活用することで、実感を伴った理解を深めることができた。前学年の既習事項を含めたミニプリントの反復練習を通して、基本的な計算技能の習得を図ることができた。
思考・判断・表現	B	【国語】また、自分の思いや考えをなかなか持てない児童には、ペアトークを行ってから書かせたり、書き出しや文型を提示したり、ICTを活用し他者参照させたりするなどの手立てを講じることで、思いや考えを持てるように支援した。 【算数】中・高学年を中心に、教科書の問題文を絵や図で置き換え表したり、二数の関係を表に表し縦や横に見たり、数直線に表して比例関係を捉えたりする活動を習慣化することで、題意や場面、数の関係の理解を深め、正しい立式、問題解決につなげることができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	【国語】情報の扱い方に関する事項の正答率が高く、情報同士の関係付けの仕方、図などによる表し方について理解できていると考えられる。一方で「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が低く、文脈に応じた漢字の書き取りに課題が見られる。 【算数】データの活用領域の正答率が高く、棒グラフの読み取り方について理解できていると考えられる。一方で「数と計算」「図形」領域の正答率が低く、単位分数の幾分として捉える見方・考え方や、平面図形作図の手順、意味や性質についての理解度に課題が見られる。	
思考・判断・表現	【国語】話すこと・聞くこと」の正答率が高く、意図に応じて話の内容を捉えることができていると考えられる。一方で「読むこと」の正答率が低く、複数の資料を読み、文章全体の構成を捉えた要旨を把握したり、図や表などと結び付けながら必要な情報を見付けることに課題が見られる。 【算数】変化と関係領域の正答率が高く、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出すことができていると考えられる。一方で、「変化と関係」領域以外の四領域全体を通して正答率が低く、特に「データの活用」領域で、目的に応じて適切なグラフを選定して数値の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題が見られる。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	【国語】どの学年にも共通して、当該学年までに習得しているはずの漢字を正しく使えていないという課題が見られる。また、文中の主語・述語・修飾語の関係を適切に理解することに課題がある。これは、新出漢字の学習で「一語を覚えること」に意識が偏り、学習方法が機械的な書き取りに終始してしまっていることが一因であると考えられる。 【算数】どの学年にも共通して、「数と計算」の領域において、当該学年で身に付けるべき基礎的な計算方法の理解や技能に課題が見られる。また、前学年までの既習事項である計算方法が十分に定着していないことも、その要因として考えられる。	
思考・判断・表現	【国語】どの学年にも共通して、「話すこと・聞くこと」の領域において、動画を視聴して解答する形式の設定に課題が見られる。これは、「何のために聞くのか」「何を聞けばよいのか」といった目的の理解が不十分であることや、多様な形式の情報を処理することに困難を感じる児童が多いためであると考えられる。 【算数】中学年では主に「データの活用」の領域で、グラフの数値や変化の様子を正しく読み取ることに課題が見られる。高学年では主に「単位数あたりの大きさ」の理解に課題があり、「何を『1』にそろえるのか」「そのためにどのような計算が必要か」といった点でつまづき児童が多いと考えられる。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	【国語】辞書を机の脇に掛け、各々自分のタイミングで意味調べができるようにした。また、委員会活動と関連させながら、学校図書館の活用を促すことができた。個人での読書習慣については差が大きいので、読書月間等の取組も活用し、一層活字を読む機会を設けた。 【算数】低学年を中心に、具体物操作を通して基礎的・基本的な知識・技能の理解を深めることができた。また、前時だけでなく、下学年の系統性のある内容を適宜確認することができた。	変更なし
思考・判断・表現	B	【国語】他の教科とも関連付けながら、図や資料から読み取ったことを相手に伝えて確認し合うことを高い頻度で行うことができた。自分の思いや考えをなかなか持てない児童も多いので、途中で他者参照できる手立て等を講じ、思いや考えを持てるようにする。 【算数】中・高学年を中心に、教科書の問題文を、絵や図で置き換え表してみることで、題意や場面、数の関係の理解を深め、問題解決につなげることができた。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)